

ICT を活用した教育体制構築に関する実証事業 報告書

1. 学校名	
ミラノ日本人学校	
2. テーマ	
<p style="text-align: center;">Andra` tutto bene ! (すべてがうまくいく!) (テーマ)「オンライン学習の取り組みから ICT 活用授業の取り組みへ」 そして、「練り上げ ～主体的・対話的な深い学びを目指して～」</p>	
3. 取組の概要 (※報告書の内容を要約し、200～400 字程度で記載してください。)	
<p>COVID-19 におけるパンデミックの状況下で、「今、子ども達にできる最善」をモットーに、目の前の状況に合わせて、ICT を活用する新たな教育実践を進めてきた。それは、オンライン学習から始まり、ハイブリッド授業や対面授業に至るまで、教科の授業はもちろんのこと、行事や様々な活動を通して取り組んだことで、将来につながる足跡を残すことができた。その中で、学校の一体感を生み出すために、ICT の活用は必要不可欠であった。特に、ミラノと日本をつなぐ、子ども同士をつなぐ、学校と保護者をつなぐなど、時間と空間を超えてつながる取り組みに、Web 会議システムや TV モニターは、フル稼働の状態であった。</p> <p>どのような状況下であっても、「子どもの学びを保障する」教育実践は、知恵と工夫を凝らすことにより創り上げることができるということを実証できたといえる。</p>	
4. 取組の背景・目的 (※非常時でも途切れない「学びの保障」の在り方と関連づけて記述してください。)	
<p>☆オンライン学習で ICT 活用の習慣を身につけた子どもに、対面授業での ICT 活用を通して主体的な学びへとつなげる。</p> <p>☆主体的な学びの姿勢を身につけた子どもに対面や Web 会議システムを通じた出会いの場を設け、自分の考えを深める学びへとつなげる。</p> <p>☆主体的で深い学びを通して身につけた自分の思いや考えをグループや Web 会議システムを活用した対話の場で伝え合い、互いの考えを練り上げることで、対話的な深い学びへとつなげる。</p> <p style="text-align: center;">【目指す児童・生徒の姿】 自分の考えを表現し、協働し、自分の考えに活かす子</p>	
5. 取組の実施日程	
日程	取組内容
4月	* 教員 ZOOM 研修 * 日本とミラノをつなぐオンライン学習の実践 * オンライン保護者会
7月	* オンラインでの定期考査 * オンライン授業研究①・研究協議
8月	* 9月以降の研究計画 * ICT 整備
9月	* 入学式 (ICT の活用) * ハイブリッド授業の実施
10月	* 体験学習 (ICT の活用) * オンライン学習アンケート * ワイン生産学習 * 運動会 (ICT の活用)
11月	* 中学部学習発表会 (ICT の活用) * ふれあい天文学教室 (ICT の活用) * 対面授業研究②・研究協議 * ICT 活用授業研究③・研究協議
12月	* 職業講話 (ICT の活用) * YKK 工場学習
1月	* 小学部学習発表会 (URL 中継)
2月	* 6年生を送る会 (リモート参観) * 研究のまとめ・研究収録完成
6. 具体的な取組内容 (※詳細に記載し、付属資料があれば添付してください。)	
<p>① オンライン授業及び ICT 活用授業の研究授業・研究協議</p> <p>② 出会いプロジェクト・ZOOM 集会・総合的な学習・行事での ICT 活用</p> <p>③ 行事の取り組みを通しての ICT 活用</p> <p>④ 教員研修 (ICT 活用実践研修)</p> <p>☆オンライン学習の構築</p> <p>1. 子どもを結ぶ: Web 会議システムを使用したオンライン・サポート (日本とミラノにいる子どもたちや保護者の不安を取り除くためのサポート)</p> <p>2. 学びの保障: 「すらら」などの授業動画配信やオンライン学習教材を活用した学び (休校中の課題、春休みの課題に加えて、学習アプリでの課題に取り組む)</p> <p>3. リアルタイム授業: 日本との時差7時間を考慮し、週15時間授業でスタート (ミラノと日本一時帰国の子どもが受講する。未履修内容から学習を進める)</p>	

4. 教員の協力体制:ミラノ残留教員・現地採用教員・日本待機教員による授業配信の協働
(オンライン会議・オンライン研究授業・補習校教員との連携:オンライン公開授業)
5. オンライン学習:在籍9割を超える子どもが受講する週20時間授業体制の確立
(国語・算数・理科・社会・英語・音楽・図工・家庭・体育・道徳・学活・イタリア語)
6. 学力の保障:個別指導による学びのサポート
(放課後の時間帯に子どもの学習のつまづきを支援する取り組み)
7. 保護者との連携:オンライン面談・オンライン保護者会・オンライン学級懇談会の協力
(学習資料や課題・提出物等のプリント、データ送信、オンライン授業支援)

◎オンライン授業での TV モニターの活用

- * 自主隔離及び隔離義務が課される子どもが想定される課題がある。そこで、子どもの学びを止めないために、教室対面授業の子どもと自宅オンライン授業の子どもとを Web 会議システムを活用して教室の TV モニターでつなぐ授業形式を計画している。
- * 感染症対策で密を避ける必要が想定される。そこで、校内での活動や行事では、Web 会議システムを活用して、教室 TV モニターを通して、双方向で子どもをつなぐ取り組み方法を計画している。
- ☆ 感染症対策をしながらも、TV モニターの活用により、子ども同士のつながりを深めるとともに主体的な学びや対話による練り上げを不断の取り組みとすることができる。その積み上げから、主体的・対話的な深い学びにつなげることを目指した。

7. 取組の成果

(※どのような課題をどのように解決したかや、生徒・児童への効果等について詳細に記載し、成果物があれば添付してください。また成果がどのような観点で他の学校の参考になるかも記載してください。)

【イタリア・ミラノにおける COVID-19 の状況と本校の動き】

- ☆ミラノでは、2020年2月24日からロックダウンによる学校閉鎖となり、本校も休校措置を実施。
- ☆休校継続のまま、3月7日卒業証書、修了証、学用品などを保護者に配布して、2019年度を修了。
- ☆感染症対応で、3月9日から7割を超える児童・生徒が、保護者と一時帰国した。(児童53名帰国)
- ☆昨年度帰国教員が、3月11日に予定より一週間前に早期帰国となった。(派遣教員12名中5名)
- ☆オンライン学習構築第1段階として、オンライン・サポートを3月26日からスタート。
- ☆オンライン学習構築第2段階として、オンライン学習ツール「すらら」の活用を開始。
- ☆オンライン学習構築第3段階として、オンラインでの保護者ミーティング(ミラノ・日本)を実施。
- ☆オンライン学習構築第4段階として、オンライン学習への教員ミーティング(ミラノと日本)を実施。
- ☆新派遣教員の4月7日派遣予定が、危険情報レベル3のために延期となった。
- ☆オンライン学習計画を策定して、4月8日にHP上に掲載して保護者等に連絡した。
- ☆4月14日、プレオンライン学習(週15時間授業)をミラノ教員10名でスタートした。
- ☆4月27日、2020年度始業式を実施、本格オンライン学習(週20時間授業)を日本待機教員も参加した教員18名でスタートした。
- ☆前期前半の7月22日まで、オンライン学習を70日間実施して、23日から夏季休業とした。
- ☆イタリア全土で、8月末まで学校閉鎖措置が実施された。
- ☆夏季休業を短縮して8月24日から31日までオンライン学習を実施継続した。
(日本待機教員6名は、8月11日に着任して14日間の隔離を終えて8月25日から出勤。)
- 9月1日 * 補習体制の「ブレ開校」として、全校対面授業を実施した。
(日本から帰伊した児童生徒は、自己隔離期間に ZOOM で対面授業に参加。)
- 9月14日 * 正式開校。イタリア現地校等もこの日から開校した。
- 10月7日 * 屋外でのマスク着用義務、緊急事態宣言1月31日まで延長が発令。
- 10月14日 * 学校における校外活動の禁止発令
- 11月6日 * ロンバルディア州・ミラノ市がレッドゾーンに指定。
中2、中3はオンライン授業、中1以下は対面授業という措置が発令。
ソフトロックダウン(外出規制、レストラン・商業施設等の営業停止)状況となる。
- 11月30日 * ロンバルディア州・ミラノ市がオレンジゾーンに変更され、それに伴い中2、中3の対面授業が再開し、全校対面授業となる。
- ☆後期前半、12月23日まで全校対面授業を継続実施し、24日から冬季休業とした。
- ☆冬季休業は1月6日までとし、1月7日後期後半の始業式を行い、全校対面授業でスタートした。
- 1月17日 * ロンバルディア州・ミラノ市が再度レッドゾーンに指定。
18日から中2、中3はオンライン授業、中1以下は対面授業という措置が発令。
- 1月25日 * ロンバルディア州・ミラノ市がオレンジゾーンに指定。
25日から中2、中3は対面授業を再開した。
- 2月1日 * * ロンバルディア州・ミラノ市がイエローゾーンに指定。

【ICT 整備計画の実施】

☆オンライン授業、ハイブリッド授業(対面+オンライン参加)、ICT活用授業等のために、4月よりICT整備計画を9月開校時に向けて準備を行った。

- ①校内Wi-Fiを設置。
- ②教室、特別教室に大型モニター及び教師用PCを設置。
- ③生徒用iPadを15台準備

【9月 2020年度入学式の取り組み】

イタリア・ミラノは、8月末まで学校閉鎖が決まっており、その中で感染症対策や研修を行い、9月1日のプレ開校、14日からの正式開校を実施して、対面授業への移行を進めた。その状況に合わせて、9月15日に2020年度の入学式を計画した。

この間、新入生である小学1年生、中学1年生は、ほとんどが4月からオンライン学習に参加していた。日本に緊急帰国していた児童・生徒やミラノ在住の児童・生徒には、事前に9月15日入学式を連絡し、ミラノに到着してからの14日間隔離を考慮して日程を組んでいただいた。また、待機教員6名が8月11日に着任したのでこの時期での入学式の実施となった。



当日の運営にあたっては、何より感染症対策が重要であった。開校時から感染症対策マニュアルを策定し、施設消毒や児童生徒の感染症予防、手指消毒、ソーシャルディスタンスの確保などに取り組んだ。さらに当日会場となる体育館の収容人数を考慮し、参加者は、新入生(小1;8名、中1;2名)、新入生保護者、必要教員、来賓2名に絞り込んだ。一方、全校で入学を祝う一体感を生み出すために、初の試みとなる在校生教室へのZOOM配信を計画した。事前に教室へのZOOM配信テストを入念に行い、当日に備えた。



4月より計画していた校内Wi-Fiの整備やテレビモニターの設置、教師用PCの準備などは、ほぼ9月初めに完了していた。当日は、iPadカメラ機能を使って、各教室に体育館での入学式の様子をZOOM配信した。

Covid-19の影響で、ミラノ日本人学校での入学式を諦めていた児童・生徒、保護者もおられたが、実施に踏み切ったことで、希望溢れる入学式となった。また、在校生にとってもZOOM配信による初の行事参加となったが、テレビモニターを通して教室から入学を祝う拍手や歓声が上がリ、全校での一体感を生み出すことができた。

反面、初の実況中継であったため、臨場感あふれる中継とはいかなかった。課題として、カメラの配置や台数、マイク設備など、ZOOM配信の画像を見ながら、次の行事で改善すべき課題を見出すことができた。

【1月 小学部学習発表会取り組み】

例年、全校で10月実施している学習発表会は、今年度小中別時期に開催することを余儀なくされた。中学部は中3の進路や受験を考慮して11月に実施した。小学部は、対面授業での学習の成果を発表するために1月22日実施した。運動会での実況中継の経験を活かして、画像や子どもの声、BGM等が中継しやすい「URLでの配信」を計画し、事前に中継テストも行いながら当日に備えた。

発表内容は、小学部3年:『ワインマスターになろう』(プレゼンとリコーダー演奏)小学部1年:『くじらぐも』(演劇と合唱)小学部5年:『ミラ日 Cinque 日本とイタリアくらべ隊—ミラボンお手製コレクション2020—』(プレゼンと自作衣装ファッションショー)小学部2年:『音読劇 お手紙』(音読劇)小学部4年:『みんなの地元の伝統工芸』(プレゼンと合奏)小学部6年:『伸びろ 青い麦』(プレゼンと演劇)といった日常の学習の成果を発表した。事前の準備や練習を通して、整備したICT機器を活用する発表が多く見られた。オンライン学習を通して機器に慣れ親しんだことがよい影響をもたらしたといえる。



しかし、当日になって各教室及び保護者のリモート参観時に予期せぬ中継途中の通信トラブルに見舞われた。子ども達や保護者の方々もトラブルに動揺したが、教師側も即座の対応を余儀なくされた。

そこで、10分間のプログラムのずれは生じたものの、急遽発表時間を遅らせてZOOM配信へ変更して中継を継続した。子ども達や保護者の方々もZOOM配信への変更に対応するとともに、自分たちの練習した成果を存分に発揮してくれた。どの学年も素晴らしい発表で、これまで様々な教科で学習してきたことが伝わってきた。保護者には、通信トラブルで見られなかった発表を別のカメラで撮影していた録画を発表会終了後速やかに「HP 在校生・保護者のページ」にアップロードして学習発表会録画をご覧いただいた。



【オンライン学習アンケートの考察】

1. オンライン学習に意欲的に取り組んでいたか。

個人差があったが、ほとんどの子ども達が意欲的に取り組んでいた。
友だちと顔を合わせることで、意欲的に授業に取り組んでいた。

2. オンライン学習の内容は理解していたか。

概ね理解(単元による)できていたが、普段より進度が早く、学習者は大変な面が多かった。
対面授業にはかなわないが、リアルタイムでの実施は一方向のオンライン授業よりよかった。

3. 1時間の授業時間は適切だったか。

適切な時間だったが、中学生には短いと感じている保護者もいた。
あと5分あると、理解度の把握やノートの確認なども余裕を持ってできると感じた。

4. 1時間の学習の進み具合は、適切だったか。

授業の事前準備には時間はかかるが、その分授業計画通りに進めることができた。
子どもが内容を理解できず、未定着のまま授業が進んでいる印象をもった保護者もいた。

5. オンライン学習 よかった点

板書計画をパワーポイントで作成しておく、対面授業よりも計画的に時間短縮して進めることができた。
様々な動画や写真・資料を手軽に見せることができ、動画など視覚的な教材を活用することができた。
学習する場所を選ばないこと、画面を見る授業なので、集中力が高まったこと。
学びを止めることなく、継続して授業が保障できたことは、子どもや保護者・教員が良かったと感じていた。
オンラインだが、子ども同士の繋がりをもち続けたことで、落ち着いた気持ちで授業に取り組めた。

6. オンライン学習 困った点

情報量が多かったり、字が小さかったりなど、支援が必要な子には困難な状況がある。
通信状態やWi-Fi状況が不安定で、音声途切れるなど、授業が円滑に進まないことがある。
ノート指導、体験的活動、書く指導などが困難で、調べる活動や体育で活動できることが限られる。
全体指導なので個別支援が難しく、理解のゆっくりとした児童・生徒には不完全燃焼の傾向がある。
送信データなどプリントが多く、データの準備や送信手段、授業前の印刷などの負担が大きい。
待機教員は、画面でしか出会えないので、児童・生徒の様子がわからず、個別支援が難しかった。
児童・生徒や教員には、長時間のPC使用によって、目や姿勢など健康面での課題がある。

7. 通常授業と比べてよかった点

感染症対策の密を避けて、授業や活動ができたことや日本からでも授業をすることができたこと。
保護者は、授業の様子を見ることができたので、授業での子どもの様子を知ることができたこと。

8. 配慮が必要だと感じた点

授業で困難な状況があった場合には、別時間をとって子どもや保護者と面談した。
低学年は保護者への負担が大きく、どの程度定着しているのか気を配る必要がある。
電波状況で授業に入れない子どもへの対応や授業に集中させることが配慮が必要である。
評価が難しいので、理解度や習熟度の確認に加えてノート指導にも配慮が必要である。
長時間視聴による視力低下が懸念されるので、内容や進度を考慮して、適宜休憩する配慮が必要である。

9. その他

個別の支援や提出物やテスト、学習の評価をどうするのかを明確にする必要がある。
児童・生徒及び教員にとって、初の試みであったが、学びを止めなかったことが高く評価できる。

8. 今後の課題・展望

(※次年度以降への継続性及び発展性に言及してください。)

- * 今後、感染症(COVID-19)だけでなく、様々な災害時などに、子どもの学びを止めないためにオンライン授業は必要不可欠となるので、本校のオンライン学習構築・実践を記録に残し、伝えていくことが大切である。
- * 教員間で、オンライン授業の授業展開、オンライン教材の共有等の情報交換や教員研修を計画的に実施することが大切である。
- * 生徒理解のための教員ミーティングを実施し、オンラインで出会う子どもの理解を深め、授業展開に活かすことが大切である。
- * オンライン授業は、宿題や課題の提出方法、テストの実施方法、評価のポイントなど学校としての共通ルールを提示するとともに、家庭でのサポートについて具体的に提起する必要がある。
- * 子ども、教員にとって、オンライン授業による身体への影響を考慮して、留意する点や授業時間、休憩時間の設定など、具体的な対策を講じることが必要である。
- * 次年度に向けて、教育実践集を共有財産として、オンライン授業及びICT活用授業等の取り組みを前進させていくことが大切である。

9. 所感

2020年2月24日、Covid-19によるロックダウン・学校閉鎖から、すべてが大きく変化した。パンデミックにより、教育実践ができない状態に陥り、先の見通しが持てない閉塞状況に追い込まれた。卒業式、修了式が実施できないまま、学習用品や課題を配布して昨年度を終了した。そして、3月から、子どもたちや保護者の緊急帰国が相次ぐこととなった。在籍7割の児童・生徒が日本に帰国した。

そんな中で、「今、子ども達にできる最善」を追求し続けた試行錯誤の一年であった。当初、残留教員6名で知恵を絞り、現地採用教員4名と事務職員2名の協力を得て、教員数やスキル、IT機器、施設・設備の揃わない中で、ゼロからオンライン学習に踏み切った。その後、日本待機教員の協力、ICT整備支援、理事会の支援などをいただき、時間割を組んでオンライン授業を進めることができた。始業式や全校集会、保護者会、懇談会、定期考査などもオンラインで実施した。

9月開校を目標として、様々な準備を夏季休業中に実施した。IT機器の準備やWi-Fi環境整備などを進めるとともに、開校許可を得ることや感染症ガイドラインの策定にも取り組んだ。そうして、ようやく9月1日から開校・対面授業にこぎ着けることができた。その後も非常時にあるミラノで、緊急対応やリスク管理に配慮しつつ、授業や行事などを実施して、子どもの学びを保障する様々な教育実践を生み出すことができた。それは、子ども、保護者、教職員、理事会が一体となって取り組んだからこそ、コロナ禍の今年度を乗り越えることができたといえる。

教訓としては、「臨機応変」の一言に尽きる。めまぐるしく変化する状況に振り回されながら、機をとらえて前に進める工夫や改善をスピード感を持って実践することこそが、非常時には何より重要であると痛感した一年であった。

※提出いただいた報告書や成果物は、本事業の取組成果として公開する予定です。また、記載いただいた内容は文部科学省や海外子女教育振興財団のその他の資料にも使わせていただく可能性があります。

※記入欄は適宜拡張してください。

実践記録集（実証事業・資料） 目次

1. ようこそ先輩 5月
2. 研究授業① 小5,6 オンライン体育 7月
3. ハイブリッド授業 9月
4. ワイン生産学習 10月
5. 運動会の取り組み 10月
6. 学習発表会・中学部英語ディベート 11月
7. ふれあい天文学教室 11月
8. 研究授業② 小1算数 11月
9. 研究授業③ 補習校小5国語 11月
10. 小5社会科 YKK工場学習 12月
11. 職業講話・中学部 ユニクロ 12月
12. 月別ムービーの取り組み
13. 教員研修 オンライン授業 ZOOM研修 4月